

病態制御薬理学研究室

Clinical Pharmacology

教授	笹岡 利安	Toshiyasu Sasaoka
准教授	恒枝 宏史	Hiroshi Tsuneki
講師	和田 努	Tsutomu Wada
研究員	小野木康弘	Yasuhiro Onogi

◆ 原 著

- 1) Wada T, Sameshima A, Yonezawa R, Morita M, Sawakawa K, Tsuneki H, Sasaoka T, Saito S. Impact of central and peripheral estrogen treatment on anxiety and depression phenotypes in a mouse model of postmenopausal obesity. *PLoS One*. 2018 Dec; 13(12): e0209859.

◆ 総 説

- 1) Tsuneki H, Wada T, Sasaoka T. Chronopathophysiological implications of orexin in sleep disturbances and lifestyle-related disorders. *Pharmacol Ther*. 2018 Jun; 186: 25-44.
- 2) 笹岡利安, 恒枝宏史. オレキシン受容体拮抗薬が糖代謝に及ぼす影響. *睡眠医療*. 2018 ; 12(1) : 65-72.
- 3) 笹岡利安. 糖尿病療養指導ガイドブック 2018. 日本糖尿病療養指導士認定機構編. 東京 : メディカルレビュー社 ; 2018. 糖尿病の基本治療と療養指導, 3. 薬物療法 (経口血糖降下薬) ; p. 74-81.

◆ 学会報告

- 1) Onogi Y, Wada T, Matsuzawa T, Okekawa A, Watanabe E, Tsuneki H, Sasaoka T. Glycolytic activation promotes PDGF-B production in adipose tissue macrophages during obesity development. American Diabetes Association 78th Scientific Sessions; 2018 Jun 22-26; Orlando, Florida, U.S.A.
- 2) Kon K*, Tsuneki H, Takata S, Maeda T, Wada T, Sasaoka T. Hypothalamic orexin is essential for estrogenic action on glucose and energy metabolism in diet-induced obese mice. American Diabetes Association 78th Scientific Sessions; 2018 Jun 22-26; Orlando, Florida, U.S.A.
- 3) Wada T, Watanabe E, Kotera Y, Onogi Y, Tsuneki H, Sasaoka T. The SDF1-CXCR4 signals regulate adipose tissue expansion by modulating angiogenesis in diet-induced obesity in mice. American Diabetes Association 78th Scientific Sessions; 2018 Jun 22-26; Orlando, Florida, U.S.A.
- 4) Tsuneki H, Kon K, Takata S, Maeda T, Koshida C, Wada T, Sasaoka T. Hypothalamic orexin prevents obesity and non-alcoholic fatty liver disease in mice fed high fat diet. 18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology; 2018 Jul 1-6; Kyoto.
- 5) Wada T, Onogi Y, Watanabe E, Matsuzawa T, Okekawa A, Tsuneki H, Sasaoka T. A novel mechanism of adipose-tissue angiogenesis via PDGF-B signaling in fat tissue expansion during obesity. International Symposium of Korea University College of Medicine BK21 Plus Graduate Program; 2018 Sep 4-5; Seoul, Korea. (Invited lecture)
- 6) Yoshida H*, Tsuneki H, Yamaguchi M, Okamoto K, Wada T, Sasaoka T. Analysis of regulatory mechanism of brain-derived neurotrophic factor BDNF function by lipid phosphatase SHIP2. The third international symposium on Toyama-Asia-Africa pharmaceutical network; 2018 Sep 10-12; Toyama.
- 7) Tsuneki H, Kon K, Takata S, Maeda T, Otsuka K, Wada T, Sasaoka T. Hypothalamic orexin system prevents the development of non-alcoholic fatty liver disease in diet-induced obese mice. 54th Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes; 2018 Oct 1-5; Berlin, Germany.
- 8) 笹岡利安, 小野木康弘, 石川明香里, 恒枝宏史, 和田 努. NASH 病態における脂肪組織肥大化での血管新生と慢性炎症の役割. 日本薬学会第 138 年会 (シンポジウム) ; 2018 Mar 25-28 ; 金沢.
- 9) 恒枝宏史, 今 寛太, 和田 努, 笹岡利安. 睡眠と糖代謝の連係調節における視床下部オレキシンの役割. 日本薬学会第 138 年会 (シンポジウム) ; 2018 Mar 25-28 ; 金沢.
- 10) 小野木康弘, 和田 努, 松澤崇俊, 桶川 晃, 恒枝宏史, 笹岡利安. 脂肪組織 CD11c 陽性マクロファージにおける Pdgfb 発現機構の解明. 日本薬学会第 138 年会 ; 2018 Mar 25-28 ; 金沢.

- 11) 和田 努, 渡邊愛理, 小寺優理, 小野木康弘, 恒枝宏史, 笹岡利安. Anagliptin による血管新生を介した脂肪組織肥大化制御機構. 第 91 回日本内分泌学会学術総会; 2018 Apr 26-28; 宮崎.
- 12) 笹岡利安, 今 寛太, 和田 努, 恒枝宏史. オレキシンによる睡眠・覚醒と糖代謝調節. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会 (シンポジウム); 2018 May 24-26; 東京.
- 13) 吉田ひとみ*, 恒枝宏史, 山口実佐子, 岡本健太郎, 中野 歩, 遠藤宏祐, 和田 努, 笹岡利安. リピッドホスファターゼ SHIP2 による脳由来神経栄養因子 BDNF 機能の制御機構の解析. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
- 14) 石川明香里*, 和田 努, 伊藤哲生, 王生美沙, 田中智子, 齋藤 滋, 恒枝宏史, 笹岡 利安. エストロゲンが雌性肥満マウスの脂肪組織における制御性 T 細胞局在に与える影響. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
- 15) 渡邊愛理*, 和田 努, 小寺優理, 小野木康弘, 恒枝宏史, 笹岡利安. DPP4 阻害剤アナグリプチンによる血管新生制御を介した抗肥満効果の検討. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
- 16) 松澤崇俊*, 和田 努, 小野木康弘, 桶川 晃, 渡邊愛理, 恒枝宏史, 笹岡利安. マクロファージ除去が内臓脂肪組織の肥大化を抑制するメカニズムの検討. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
- 17) 小野木康弘, 和田 努, 松澤崇俊, 桶川 晃, 恒枝宏史, 笹岡利安. 脂肪組織マクロファージの代謝プログラミングによる PDGF-B 産生機構の解析. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
- 18) 田中智子, 和田 努, 伊藤哲生, 王生美沙, 宇埜生美恵, 荻原沙季, 石川明香里, 鮫島 梓, 恒枝宏史, 笹岡利安, 齋藤 滋. CD4⁺ T 細胞特異的 ER α 欠損マウスに対する高脂肪食負荷が脂肪組織慢性炎症におよぼす影響. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
- 19) 今 寛太*, 恒枝宏史, 高田慎治郎, 前田貴大, 大塚小由希, 越田千晶, 東海絵美, 和田 努, 笹岡利安. エストロゲンは視床下部オレキシン系を介して閉経肥満マウスの耐糖能異常を防御する. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
- 20) 恒枝宏史, 大西兼悟, 前田貴大, 高月真由美, 和田 努, 笹岡利安. 2 型糖尿病マウスにおけるプロモクリプチンのドパミン D2 受容体非依存的な耐糖能改善作用. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
- 21) 上野麻子, 角 朝信, 朴木久恵, 大村佳之, 桑野剛英, 佐野 功, 中嶋 歩, 渡邊善之, 岡部圭介, 瀧川章子, 藤坂志帆, 石木 学, 岩田 実, 和田 努, 笹岡利安, 八木邦公, 戸邊一之. 高齢者における外来での随時 CPI を用いたインスリン治療の必要性の評価. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会; 2018 May 24-26; 東京.
- 22) 笹岡利安, 恒枝宏史. オレキシンによる睡眠・覚醒と糖代謝調節. 日本睡眠学会第 43 回定期学術集会 (シンポジウム); 2018 Jul 11-13; 札幌.
- 23) 今 寛太*, 恒枝宏史, 前田貴大, 和田 努, 笹岡利安. 糖尿病防止における視床下部オレキシンによる代謝調節の意義. 第 69 回日本薬理学会北部会 (シンポジウム); 2018 Sep 21; 富山.
- 24) 木村郁子, 香川正太, 恒枝宏史, 田中香お里. クマザサ葉エキスの薬理学. 第 17 回日本臨床中医薬学会学術大会; 2018 Oct 13; 大阪.
- 25) 田中智子, 和田 努, 宇埜生美恵, 荻原沙季, 叶 喬博, 石川明香里, 伊藤哲生, 王生美沙, 鮫島 梓, 恒枝宏史, 齋藤 滋, 笹岡利安. T 細胞における ER α を介したエストロゲン作用が肥満および妊娠糖尿病マウスの糖代謝に及ぼす影響. 第 18 回日本内分泌学会北陸支部学術集会; 2018 Nov 10; 金沢.
- 26) 宇埜生美恵**, 和田 努, 田中智子, 荻原沙季, 叶 喬博, 石川明香里, 齋藤 滋, 恒枝宏史, 笹岡利安. CD4⁺ T 細胞のエストロゲン受容体 α を介するエストロゲン作用が妊娠糖尿病病態におよぼす影響. 日本薬学会北陸支部第 130 回例会; 2018 Nov 18; 富山.
- 27) 吉田ひとみ*, 恒枝宏史, 山口実佐子, 岡本健太郎, 遠藤宏祐, 和田 努, 笹岡利安. 5'-リピッドホスファターゼ SHIP2 阻害剤による脳由来神経栄養因子 BDNF 発現の増強効果. 日本薬学会北陸支部第 130 回例会; 2018 Nov 18; 富山.
- 28) 松澤崇俊*, 和田 努, 小野木康弘, 桶川 晃, 渡邊愛理, 池田恵介, 中野 実, 恒枝宏史, 笹岡利安. マクロファージによる血管新生を介した内臓脂肪組織肥大化機構の解明. 日本薬学会北陸支部第 130 回例会; 2018 Nov 18; 富山.
- 29) 高田慎治郎*, 恒枝宏史, 今 寛太, 前田貴大, 大塚小由希, 関根崇洋, 高崎一郎, 和田 努, 笹岡利安. 視床下部オレキシン系による肥満と非アルコール性脂肪肝炎の防御効果. 日本薬学会北陸支部第 130 回例会; 2018 Nov 18; 富山.
- 30) 石川明香里*, 和田 努, 伊藤哲生, 田中智子, 宇埜生美恵, 西村燦志朗, 齋藤 滋, 恒枝宏史, 笹岡利安. 雌雄肥

満マウスの内臓脂肪組織における制御性 T 細胞局在変化の検討. 日本薬学会北陸支部第 130 回例会 ; 2018 Nov 18 ; 富山.

- 31) 渡邊愛理*, 和田 努, 小野木康弘, 長谷川颯, 松澤崇俊, 桶川 晃, 高田慎治郎, 恒枝宏史, 笹岡利安. SDF1 によるペリサイトの制御を介した内臓脂肪肥大化機構. 第 30 回分子糖尿病学シンポジウム ; 2018 Dec 1 ; 東京.

◆ その他

- 1) Tsuneki H, Takata S, Maeda T, Kon K, Wada T, Sasaoka T. Chronopathophysiological implications of orexin in sleep disturbances, type 2 diabetes, and NAFLD/NASH. Ben-Gurion University of the Negev, University Hospital Scientific Lecture; 2018 Dec 13; Ben-Gurion University of the Negev, Israel.
- 2) Sasaoka T, Onogi Y, Watanabe E, Tsuneki H, Wada T. Impact of SDF1/CXCR4 signaling on pericyte mobilization during obesity development. Ben-Gurion University of the Negev, University Hospital Scientific Lecture; 2018 Dec 13; Ben-Gurion University of the Negev, Israel.
- 3) 恒枝宏史, 笹岡利安. 嗅覚系による中枢性糖代謝調節に対するニコチンの影響. 第 33 回喫煙科学研究財団平成 29 年度助成研究発表会 ; 2018 Jul 24 ; 東京.
- 4) 和田 努. DPP4 阻害剤の脂肪組織血管新生抑制を介し肥満抑制機能. Toyama Academic GALA 2018 ; 2018 Sep 14 ; 富山.
- 5) 笹岡利安. 概日リズムからみた糖尿病における不眠の病態と対策. 小浜医師会学術講演会 ; 2018 Nov 29 ; 小浜.
- 6) 笹岡利安, 吉田ひとみ, 山口美佐子, 和田 努, 恒枝宏史. 糖尿病認知障害の新規治療に向けたリピッドホスファターゼ SHIP2 阻害による脳由来神経栄養因子 BDNF 発現の改善効果. 第 97 回北陸糖尿病集談会 ; 2018 Dec 8 ; 金沢.